

安全な MRI 検査をおこなうために～3.0T 導入に向けて～

那須赤十字病院 放射線科

○佐藤統幸 檜山操 藤田一美 加藤美和 石崎 充

【目的】

2007 年 1.5T MRI の入れ替えにあたり、日当直でも MRI 検査をおこなうようになったが、酸素ボンベ、点滴台、掃除機等の吸着事故により、安全対策としてチェックリストの作成や全職員対象の安全講習会を行ってきた。2012 年 7 月 新病院開設で 3.0T MRI 導入が決まったのを受けて、チェックリストや講習会内容の見直しをすることにした。

【方法】

まず、新人職員に MRI 安全についてアンケート調査を行い安全意識の実態調査を行った、対象を新人職員にすることによって一般の MRI 安全意識の実態が把握出来ると考えた。

その結果と今までの問題点や 3.0T MRI 導入に向けての準備体制をもとに、MRI に携わる技師、看護師で話し合い、チェックリストを見直す。

さらに、新人職員に対して MRI の安全講習会をおこない、その後同じアンケート調査を実施して講習会の効果と内容を検討した。

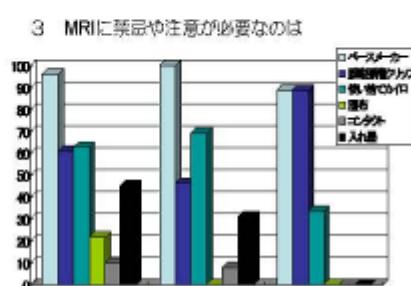
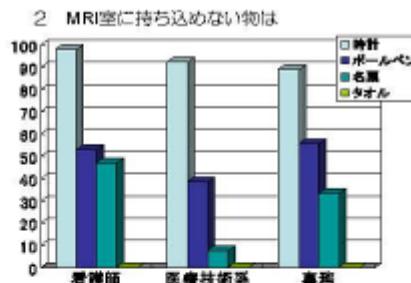
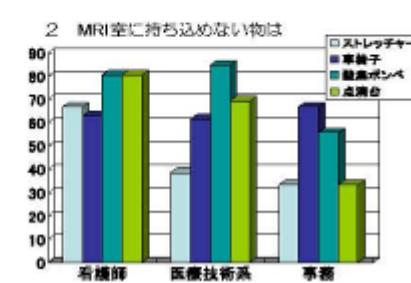
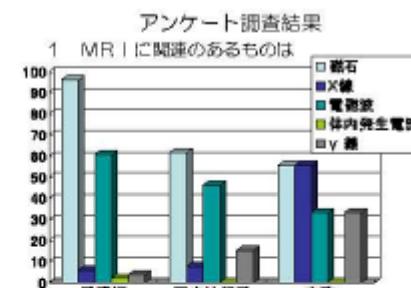
【結果】

MRI に磁石が使用していることは看護師 96.1%・医療技術部系 61.5%・事務系 55.6% で、電磁波では護師 60.8%・医療技術部系 46.2%・事務系 33.3% となり認知が下がっていることがわかった。

MRI に持ち込めないものとして酸素ボンベは看護師 80.4%・医療技術部系 84.6%・事務系 55.6% で、ストレッチャー（専用を除く）では看護師 66.7%・医療技術部系 38.5%・事務系 33.3% となり、物によっての意識の違いを確認できた。

MRI 患者に禁忌もしくは注意が必要としてペースメーカーは、看護師 96.1%・医療技術部系 100%・事務系 88.9% で、入れ墨では看護師 45.1%・医療技術部系 30.8%・事務系 0% となり何が一般的で何が特殊になっているか確認が出来た。

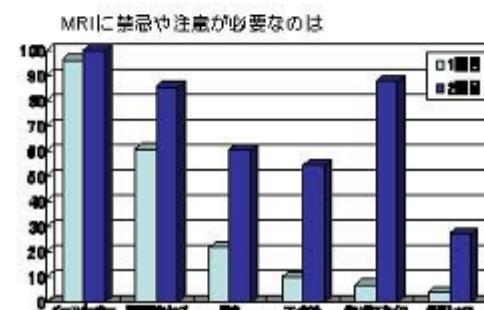
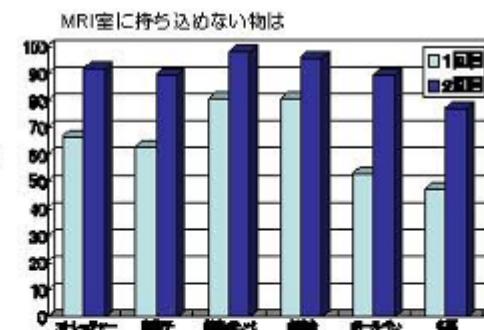
全体的には MRI 検査室に持ち込めないものや、何が禁忌か注意なのか完全に理解しているのはほとんど無く、職種別では看護師のような医療の全体の知識が必要な職種から、医療知識に特化した職種、一般職となるにつれ MRI の安全意識が下がっていく傾向があることがわかった。



次に安全講習会の後におこなった再アンケート調査では、MRI 室に持ち込めない物ではストレッチャー・車椅子・酸素ポンベ・点滴台など比較的大きな金属製医療器具は 9 割以上に、ボールペンも 9 割に理解が上がった。

続いて MRI に禁忌や注意が必要ではペースメーカー・動脈瘤クリップ・使い捨てカイロなどはほぼ理解したようですが湿布・コンタクト・保温シャツ(ヒートテック)ではまだまだ理解していないと考えられ物によって差が出ていることがわかった。

これにより、チェックリストの内容を危険度での並び替えや、見易さやポイントを抑えることを意識して変更することによりチェック体制の強化ができた。



旧チェックシート		新チェックシート	
<p>MRI 検査チェック用紙 「患者の安全性の確保」 この検査は金属類を持ち込まないで下さい。</p> <p>1. 内部・周囲に金属があるとMRI装置で危険なことがあります。 金属を含むストレッチャー・車椅子・酸素ポンベ・点滴台等は持込出来ません。</p> <p>2. 心臓手術（ペースメーカー）など金属を含むものを持込しないで下さい。 金属を含む心臓手術（ペースメーカー）などはMRI装置で危険なことがあります。</p> <p>3. ボールペン・コンタクト・保温シャツ(ヒートテック)等は危険なことがあります。 金属を含むボールペン・コンタクト・保温シャツ(ヒートテック)等はMRI装置で危険なことがあります。</p> <p>4. 湿布等は危険なことがあります。 金属を含む湿布等はMRI装置で危険なことがあります。</p> <p>5. 他の人との間隔（1m以上） 金属を含む他の人との間隔（1m以上）</p> <p>6. 驚か・恐怖感 金属を含む恐怖感</p> <p>7. 金属を含む手袋（ゴム手袋） 金属を含む手袋（ゴム手袋）</p> <p>8. 金属を含む香水や化粧品 金属を含む香水や化粧品</p> <p>9. 金属を含む化粧品 金属を含む化粧品</p> <p>* 患者入院までの専用手帳にて専用手帳ハントリチャードの記載有り。 （既往歴有り）</p> <p>※ 3回まで検査箇所をすべての内持込を待ちます。</p>		<p>MRI 検査チェック用紙 「患者の安全性」 この検査は金属類を持ち込まないで下さい。</p> <p>1. 内部・周囲に金属があるとMRI装置で危険なことがあります。 金属を含むストレッチャー・車椅子・酸素ポンベ・点滴台等は持込出来ません。</p> <p>2. 心臓手術（ペースメーカー）など金属を含むものを持込しないで下さい。 金属を含む心臓手術（ペースメーカー）などはMRI装置で危険なことがあります。</p> <p>3. ボールペン・コンタクト・保温シャツ(ヒートテック)等は危険なことがあります。 金属を含むボールペン・コンタクト・保温シャツ(ヒートテック)等はMRI装置で危険なことがあります。</p> <p>4. 湿布等は危険なことがあります。 金属を含む湿布等はMRI装置で危険なことがあります。</p> <p>5. 他の人との間隔（1m以上） 金属を含む他の人との間隔（1m以上）</p> <p>6. 驚か・恐怖感 金属を含む恐怖感</p> <p>7. 金属を含む手袋（ゴム手袋） 金属を含む手袋（ゴム手袋）</p> <p>8. 金属を含む香水や化粧品 金属を含む香水や化粧品</p> <p>9. 金属を含む化粧品 金属を含む化粧品</p> <p>※ 3回まで検査箇所をすべての内持込を待ちます。</p>	
<p>事前振り分け項目</p>			

新しいチェック用紙では、今まで 1.5T では注意して検査していた MRI 対応の体内留置金属や入れ墨などを 3T 使用のための事前振り分けをすることを考えた。

まず始めの 3 項目は検査適応を観る欄で一度技師が確認することにし、その後一般的な確認をして内容も出来るだけ具体例を載せることにした

【考察】

MRI 業務に携わっている者には当たり前のことだが、接する機会の少ない職員や患者には特別であることが多數あり、MRI での事故をなくすためにはチェック体制のルールとその徹底・そのチェックリスト等の質の向上・講習会等での知識の教育と意識の持続を繰り返し行うことが MRI の安全につながると考える。